

第6次竹原市総合計画

資料

竹原市総合計画策定条例

平成 29 年 3 月 3 日竹原市条例第 2 号

(趣旨)

第 1 条 この条例は、総合的かつ計画的な市政の運営を図るため、本市の総合計画の策定に関し、必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第 2 条 この条例において、次の各号に掲げる用語の意義は、それぞれ当該各号に定めるところによる。

- (1) 総合計画 将来の長期的な展望の下に市政のあらゆる分野を対象とした総合的かつ計画的なまちづくりの指針であり、基本構想及び基本計画からなるものをいう。
- (2) 基本構想 本市のまちづくりの基本理念及び基本目標を示すものをいう。
- (3) 基本計画 基本構想実現のための施策の方針と具体的な施策を体系的に示すものをいう。

(審議会の設置)

第 3 条 地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 138 条の 4 第 3 項の規定により、竹原市総合計画の策定に関し必要な事項の調査及び審議を行うため、竹原市総合計画審議会（以下「審議会」という。）を設置する。

- 2 審議会は、委員 25 人以内で組織する。
- 3 委員は、当該事案の調査及び審議が完了したときは、その職を失う。
- 4 審議会に会長を置き、会長は委員の互選により定める。

(審議会への諮問)

第 4 条 市長は、基本構想を策定するに当たっては、あらかじめ、審議会に諮問するものとする。

(議会の議決)

第 5 条 市長は、前条に規定する手続を経て、基本構想を策定しようとするときは、議会の議決を経るものとする。

- 2 前条及び前項の規定は、基本構想の変更について準用する。

(基本計画の策定)

第 6 条 基本計画は、市長が、基本構想に即して策定し、又は変更するものとする。

(総合計画の公表)

第 7 条 市長は、総合計画を策定し、又は変更したときは、これを公表するものとする。

(総合計画との整合)

第 8 条 個別の行政分野において施策の基本的な事項を定める計画を策定し、又は変更する場合は、総合計画との整合を図るものとする。

(委任)

第 9 条 この条例に定めるもののほか必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この条例は、公布の日から施行する。

(特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正)

- 2 特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例（昭和 34 年竹原市条例第 3 号）の一部を次のように改正する

(次のよう略)

2

竹原市総合計画審議会委員名簿

順不同・敬称略

区 分	団 体	役 職	名 前
学識経験	広島修道大学国際コミュニティ学部	教 授	イトウ トシヤス 伊藤 敏安 ◎
学識経験	比治山大学短期大学部幼児教育科	准 教 授	ナキタ マサミ 七木田 方美
団 体	竹原商工会議所	副 会 頭	ヒウラ テツジ 白浦 徹治
団 体	一般社団法人 竹原市観光協会	副 会 長	ホリカワ タイスケ 堀川 大輔
団 体	一般社団法人 竹原地区医師会	会 長	オオタ カズヒロ 大田 和弘
団 体	社会福祉法人 竹原市社会福祉協議会	会 長	ナカオキ アキラ 中沖 明
地 域	竹原市自治会連合会	副 会 長	ハシモト セイユウ 橋本 清勇
地 域	竹原市女性連絡協議会	会 長	タケノ シュンコ 竹下 純子
地 域	竹原市立竹原西保育所	保護者代表	ミヨシ ハルオ 三吉 治雄
地 域	竹原市 PTA 連合会	幹 事	タツミ ユタカ 辰己 寛
地 域	竹原市老人クラブ連合会	運 営 委 員	ミヨシ エミコ 三吉 恵美子

- ※ 1. ◎は会長を示す。
2. 平成31年(2019)3月現在

諮 問

竹 企 第 19 号
平成29年11月10日

竹原市総合計画審議会
会 長 様

竹 原 市 長

竹原市総合計画の策定について（諮問）

竹原市総合計画を策定したいので、その基本構想及び基本計画について、竹原市総合計画策定条例（平成29年条例第2号）第4条の規定により、貴会の意見を求めます。

答 申

平成30年11月26日

竹原市長 今 榮 敏 彦 様

竹原市総合計画審議会
会長 伊 藤 敏 安

竹原市総合計画（基本構想）の策定について（答申）

平成29年11月10日付け竹企第19号で諮問がありました竹原市総合計画の策定については、審議会において慎重に調査・審議を重ねた結果、別紙のとおり取りまとめましたので、次の意見を添えて答申します。

なお、基本計画については、改めて答申します。

[意見]

- 1 平成30年7月、竹原市は集中豪雨に見舞われ、甚大な被害が発生しました。この災害からの早期復旧・復興は、基本構想案に重点テーマとして位置づけられているところですが、災害からの早期復旧・復興をいわば発条（バネ）とし、市民をはじめとする多様な主体と行政との連携・協力を一段と密にしたうえで、「**元気と笑顔**が織り成す 暮らし誇らし、竹原市。」という将来都市像の具体化に向けて、まちづくりに取り組まれるよう期待します。
- 2 人と人との顔の見えるつながりが保持されていることは、竹原市の大きな特徴の一つと言えます。その一方、人口減少と高齢化などを背景に、そのようなつながりが希薄化しつつあるという問題も指摘されます。そのため地域コミュニティの再生を図り、竹原市への誇りと愛着を育みながら、自助・共助・公助のバランスのもとで、多様な人たちの発想力や行動力を活用したまちづくりを進められるよう期待します。
- 3 本審議会での審議のほか、「将来都市像」に関するアイデア募集や「基本構想」策定のための意見募集（パブリックコメント）において、多数の市民の方から貴重な御意見・御提案をいただきました。これらの御意見・御提案についても、今後のまちづくりや市政の点検・評価に積極的に活用されるよう期待します。

平成31年 2月12日

竹原市長 今 榮 敏 彦 様

竹原市総合計画審議会
会長 伊 藤 敏 安

竹原市総合計画（基本計画）の策定について（答申）

平成29年11月10日付け竹企第19号で諮問がありました竹原市総合計画（基本計画）の策定については、審議会において慎重に調査・審議を重ねた結果、別紙のとおり取りまとめましたので、次の意見を添えて答申します。

[意見]

- 1 竹原市の財政は極めて厳しい状況にあるため、基本計画の実施に際しては、メリハリを付けたうえで、従来にも増して計画的・効率的・持続的な財政運営に努められるようお願いします。
- 2 厳しい財政状況の中でも市民の満足度や利便性の維持・向上を図るため、基本計画の実施に際しては、「市民起点」という基本認識を適宜確認しながら、PDCAサイクルを通じて業務や組織の不断の見直し、改善に努められるようお願いします。
- 3 基本計画の策定過程において、本審議会の審議並びに市民の意識調査（市民アンケート調査）及び市民からの意見募集（パブリックコメント）を通じて貴重な御意見・御提案をいただきました。基本計画の実施に際して、これらの御意見・御提案が活用されるよう期待します。

3 計画策定の経緯

年月日	策定作業・会議等
平成 29 年 (2017)	
3 月 23 日	総合計画に係る職員との意見交換①
4 月 13 日	総合計画に係る職員との意見交換②
4 月 17 日	第 1 回竹原市新総合計画策定委員会
4 月 25 日	第 1 回竹原市新総合計画策定委員会ワーキング会議
5 月 18 日	第 2 回竹原市新総合計画策定委員会ワーキング会議
5 月 31 日	第 2 回竹原市新総合計画策定委員会
6 月 9 日	第 3 回竹原市新総合計画策定委員会
6 月 27 日	第 3 回竹原市新総合計画策定委員会ワーキング会議
7 月 10 日	第 4 回竹原市新総合計画策定委員会ワーキング会議
7 月 31 日	第 4 回竹原市新総合計画策定委員会
11 月 1 日	市議会全員協議会
11 月 10 日	第 1 回竹原市総合計画審議会 (総合計画 諮問)
平成 30 年 (2018)	
4 月 20 日	第 5 回竹原市新総合計画策定委員会ワーキング会議
4 月 23 日	第 5 回竹原市新総合計画策定委員会
4 月 27 日	第 6 回竹原市新総合計画策定委員会ワーキング会議
5 月 11 日	第 7 回竹原市新総合計画策定委員会ワーキング会議
5 月 21 日	第 6 回竹原市新総合計画策定委員会
6 月 1 日	第 7 回竹原市新総合計画策定委員会
6 月 5 日	第 1 回竹原市新総合計画策定委員会幹事会
6 月 7 日	第 8 回竹原市新総合計画策定委員会ワーキング会議
6 月 19 日	第 8 回竹原市新総合計画策定委員会
6 月 26 日	第 2 回竹原市総合計画審議会
7 月 4 日	第 9 回竹原市新総合計画策定委員会ワーキング会議
8 月 2 日	第 2 回竹原市新総合計画策定委員会幹事会
9 月 7 日	第 9 回竹原市新総合計画策定委員会
9 月 14 日	第 3 回竹原市総合計画審議会
9 月 25 日	市議会全員協議会
9 月 29 日	パブリックコメント (基本構想) (10 月 31 日まで)
10 月 23 日	第 10 回竹原市新総合計画策定委員会
10 月 29 日	第 4 回竹原市総合計画審議会
11 月 19 日	第 11 回竹原市新総合計画策定委員会
11 月 26 日	第 5 回竹原市総合計画審議会 (基本構想 答申)
12 月 14 日	第 3 回竹原市新総合計画策定委員会幹事会
12 月 21 日	市議会全員協議会
12 月 21 日	第 4 回竹原市新総合計画策定委員会幹事会
12 月 25 日	基本構想 議決
12 月 28 日	パブリックコメント (基本計画) (1 月 25 日まで)
平成 31 年 (2019)	
1 月 28 日	第 12 回竹原市新総合計画策定委員会
2 月 1 日	市議会全員協議会
2 月 12 日	第 6 回竹原市総合計画審議会 (基本計画 答申)
3 月 31 日	第 6 次竹原市総合計画 策定

これからの社会経済情勢

区分	内容等
人口減少と 少子化・高齢化 の進行	<p>(1) 一億総活躍社会^{※1}の実現と地方創生の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○人口減少と少子高齢化が加速し、<u>居住地域の6割以上で人口減少、2割で無居住化</u>。少子高齢化に歯止めをかけ、誰もが能力を発揮できる一億総活躍社会の実現が必要。 ○地方暮らしのための相談件数が増加。地方移住などの支援が重要。 <p>(2) 少子化・高齢化の進行と生産年齢人口の減少</p> <ul style="list-style-type: none"> ○少子化が進行、現役世代の負担増加や経済の規模の縮小などが懸念。高齢化により、医療等政策と都市・交通等政策が協調した取組、高齢者の社会参加活動の促進などが重要。 <p>(3) 「対流促進型国土^{※2}」と「コンパクト+ネットワーク」形成の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域間でヒト、モノ、カネ、情報が活発に動く「対流型国土」の形成が必要。 ○行政や生活サービス機能などコンパクトにまとまった地域と居住地域とが交通や情報通信のネットワークでつながることが重要。
経済・雇用環境 の変化	<p>(1) 経済の好循環の進展</p> <ul style="list-style-type: none"> ○経済は、回復基調、個人消費や設備投資など好循環が進展。消費者物価が横ばいで、<u>デフレ^{※3}からの脱却に向けた課題が残る</u>。 ○地域経済の好循環拡大のため、産学官民連携による<u>地域資源と資金活用の経済構造改革の推進が必要</u>。 <p>(2) 働き方をめぐる環境の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生産年齢人口の減少から人手不足による経済成長の制約が懸念。第4次産業革命^{※4}におけるイノベーション^{※5}に対応した<u>労働生産性の向上</u>、女性や高齢者の労働参加など働き方をめぐる環境変化への対応が必要。女性や高齢者の活躍の場の確保が必要。 ○非正規雇用者^{※6}の賃金増加や正規雇用への転換の推進、<u>ワークライフバランス^{※7}の実現</u>など、労働環境の整備が必要。
グローバル化の 進展	<p>(1) 経済のグローバル化と新成長分野への投資拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ○アジア諸国の経済成長に伴い、製造業の競争が激化し、今後需要が見込まれる産業分野に対する技術力の向上、技術力を生かした産業の高付加価値化等による国際競争力の強化が必要。 <p>(2) 観光立国の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○外国人旅行者が増加しており、<u>ゴールドルート（東京～大阪）以外の地方への外国人旅行者の誘導、消費の促進など観光を地方創生の切り札として活用することが重要</u>。 ○観光は基盤産業として、<u>地域の新たな需要や雇用の創出につながることを期待され期待され、東京オリンピック・パラリンピック開催に合わせ、受入体制の充実が必要</u>。 <p>(3) グローバル人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ○世界経済のグローバル化の中で、<u>国際的に活躍できるグローバル人材の育成が急務</u>。

- ※1 一億総活躍社会/少子高齢化に歯止めをかけ、50年後も人口1億人を維持し、家庭・職場・地域で誰もが活躍できる社会を目指すこと。
- ※2 対流促進型国土/多様な個性を持つ様々な地域が相互に連携して生じる地域間のヒト、モノ、カネ、情報の双方向の活発な動きである「対流」が地域に活力をもたらすとともに、多様で異質な個性の交わり、結びつきによってイノベーション（新たな価値）を創出する。この対流が全国各地でダイナミックに湧き起こる国土のこと。
- ※3 デフレ/デフレーション（Deflation）の略。物価が持続的に下落していく経済現象のこと。
- ※4 第4次産業革命/18世紀の最初の産業革命以降の4番目の主要な産業時代。「モノのインターネット（IoT）」や「人工知能（AI）」を用いることで起こる製造業の革新が進む段階のこと。
- ※5 イノベーション/技術やビジネスモデル等の革新のこと。
- ※6 非正規雇用/「パートタイマー」、「アルバイト」、「契約社員」（期間社員）、「契約職員」（臨時職員）、および「派遣社員」（登録型派遣）など、正規雇用以外の有期雇用のこと。
- ※7 ワークライフバランス/老若男女あらゆる人々が人生の各段階において仕事と個人の生活の両方を、バランスよく充実させていこうという考え方。仕事だけでなく、生活も満たされること。

区 分	内 容 等
社会の成熟化に伴う価値観の変化	<p>(1) 「生活の質」に対する意識の高まり ○心の豊かさ重視する人が増加傾向。価値観の変化に対応した生活、仕事の希望を実現できる社会環境づくりが必要。</p> <p>(2) 健康づくりに対する意識の高まり ○平均寿命の延伸に伴い、健康寿命※¹と平均寿命の差が拡大。医療費等負担が大きくなることが懸念。社会保障制度の持続可能性を高めるための健康寿命の延伸が必要。 ○疾病のうち生活習慣病の割合が高まっており、健康寿命を延ばす健康づくり・疾病予防の取組の推進が重要。</p> <p>(3) 日常生活を支える地域コミュニティの維持 ○日常生活に悩みや不安を感じている人が多く、安心して日常生活を送ることのできる環境づくりが必要。 ○地域課題の解決や安心・安全な暮らしなど、様々な機能を担う自治会等の地域コミュニティの維持・活性化が必要。</p>
環境と調和した持続可能な地域づくり	<p>(1) 低炭素社会※²の構築 ○地球温暖化が進行。低炭素型の都市・地域構造や社会経済システムの形成に向け、公共交通機関の利用促進など、行政・企業・家庭が一体となった温室効果ガス排出削減等の取組の推進が必要。</p> <p>(2) 豊かな自然共生社会の実現 ○生態系の維持、自然と人間が共生できる環境を確保するため、森・里・川・海の再生・保全、野生動植物の保護、河川や海域の環境改善など、行政・市民・企業などすべての主体による活動が必要。</p> <p>(3) 循環型社会の推進 ○国民の3R※³に関する意識は低下傾向。問題意識が実際の3Rに結び付く社会システムの検討が必要。</p>
安全・安心な社会の構築	<p>(1) 防災に対する意識の高まり ○台風や集中豪雨などによる甚大な被害が頻発し、南海トラフ大地震の発生も予想されるなど、自然災害への懸念が増大。 ○地域コミュニティによる自助・共助の重要性が再認識。市民や企業を始め地域全体が連携する災害に強いまちづくりが必要。</p> <p>(2) 社会資本ストックの老朽化 ○高度経済成長期に建設された大量の社会資本の老朽化の進行や今後の維持管理・更新に要する費用の増大が予測。 ○社会資本ストックは、道路のシェアが3割以上。施設の長寿命化や技術開発等により、効率的な維持管理・更新が必要。</p>
高度情報化社会の進展	<p>ICT※⁴の飛躍的な発展 ○スマートフォンを起点としたネットサービス消費が一層増加。 ○情報の自由な流通を巡る国際議論など、「ビッグデータ※⁵利活用元年」に向けた環境整備が進捗。 ○IoT※⁶化で低コストでのビッグデータ収集が可能になるとともに、AI※⁷による解析で新たな価値が創出。「Society5.0(仮想空間と現実空間を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会)」の実現に向けた、第4次産業革命※⁸への期待の高まり。 ○生産年齢人口の減少、地方圏人口の流出などの社会的課題の解決に向けた働き方改革や地方創生において、ICT利活用の貢献を期待。</p>

※1 健康寿命/日常的・継続的な医療・介護に依存しないで、自分の心身で生命維持し、自立した生活ができる生存期間のこと。
 ※2 低炭素社会/二酸化炭素の排出が少ない社会のこと。
 ※3 3R/Reduce(リデュース) 廃棄物の発生抑制, Reuse(リユース) 再使用, Recycle(リサイクル) 廃棄物の再資源化をキーワードとする循環型社会を形成していくための政策。
 ※4 ICT/Information and Communication Technologyの略語。情報通信技術のこと。
 ※5 ビッグデータ/一般的なデータ管理・処理ソフトウェアで扱うことが困難なほど巨大で複雑なデータの集合のこと。
 ※6 IoT/Internet of Thingsの略語。日本語ではモノのインターネット。様々な「モノ(物)」がインターネットに接続され、情報交換することにより相互に制御する仕組み。
 ※7 AI/Artificial Intelligenceの略語。人工知能のこと。
 ※8 第4次産業革命/18世紀の最初の産業革命以降の4番目の主要な産業時代。「モノのインターネット(IoT)」や「人工知能(AI)」を用いることで起こる製造業の革新が進む段階のこと。

竹原市の現状

(1) 地域特性

① 立地特性

竹原市は、瀬戸内海沿岸部の中央、広島県内でも南部のほぼ中央に位置し、東は三原市、北と西は東広島市、南は海を介して大崎上島町や愛媛県今治市と接しています。

市内には、南北を二級河川「賀茂川」が流れ、その周辺から沿岸部の平地部に市街地が形成されています。平地部の周囲は、朝日山を中心に三方を山に囲まれ、その中を幾筋もの小河川が流れ、源流域の多くが市内にあるという特性を持っています。また、南側に広がる瀬戸内海には、大久野島をはじめとした島々が分布し、多島美の景観が広がり、豊かな自然と温暖な気候に恵まれた住環境が形成されています。

交通は、内陸部の東西方向に国道2号、南北方向に国道432号、沿岸部に国道185号とJR呉線が通っています。また、地方港湾竹原港、忠海港があり、島しょ部と航路で結ばれています。北側には山陽自動車道河内インターチェンジ及び広島空港があり、高速交通体系にも恵まれ、空・陸・海の交通利便性の高い地域となっています。

② 歴史環境

先史時代からこの地に人々が住み、なかでも賀茂川流域では古墳をはじめとした遺跡が存在しており、その時代の暮らしや文化をうかがい知ることができます。

中世には、賀茂川流域一帯は京都の下賀茂社の荘園となり、鎌倉時代には、小早川氏が治めました。小早川家の

の14代当主が毛利家から養子となった毛利元就の三男小早川隆景です。

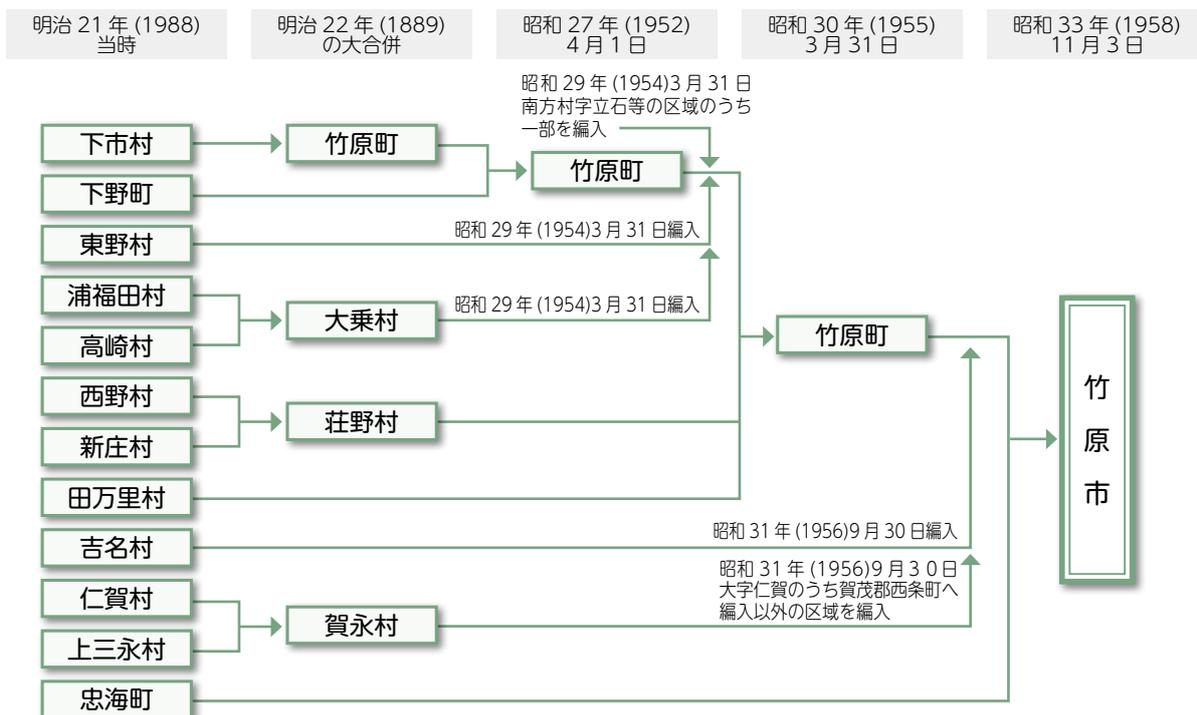
近世になると、塩田が開発され、製塩業とともにまちが大きく発展し、現在の町並み保存地区（重要伝統的建造物群保存地区）を形成しました。

また、経済的な発展は、教育文化へとつながり、頼山陽の父である頼春水と弟春風・杏坪の三兄弟をはじめ多くの学者・文化人を輩出するなど、近世後期に竹原固有の町人文化の高揚期が訪れることとなり、竹原出身の大成した学者などによって、竹原は“文教の地”として広く知られるようになりました。こうした経済発展や教育文化の振興は、後に池田勇人（第58～60代内閣総理大臣）や竹鶴政孝（ジャパニーズウィスキーの父）といった世界で活躍する人物の輩出へとつながりました。

近代に入ると、製塩業は厳しい環境になり、徐々に塩田の面積は縮小していき、昭和35年（1960）に全面廃止されました。こうした経済環境の変化に伴い、300年来の基幹産業から、非鉄金属製造業や火力発電所など新たな産業の立地により、産業構造の転換を果たしました。

行政面では、明治22年（1889）に12町村から9町村へと合併が行われ、さらに昭和27年（1952）から昭和31年（1956）の合併によって竹原町が拡大し、昭和33年（1958）の竹原町と忠海町の合併により、竹原市が誕生しました。

図 竹原市の沿革



(2) 社会経済状況

区分	現状を示す統計値等
人口	<ul style="list-style-type: none"> ○人口増減 <ul style="list-style-type: none"> ・近年 500 人前後の減少で推移（自然減，社会減） ○自然増減 <ul style="list-style-type: none"> ・近年マイナス幅が拡大傾向。近年 250 人以上のマイナスで推移 ・死亡は 400 人程度で増加傾向。出生は減少傾向で H28 は 116 人 ・合計特殊出生率は，県平均より下で，その差が拡大傾向。H28 は県平均 1.54 で竹原市 1.47 ・未婚率は，男女・年齢別にみると年々上昇傾向 周辺市よりも，未婚率が高い年齢階層が多くなっている。（男性 30 代・50 代前半，女性 20 代前半，50 代前半） ○社会増減 <ul style="list-style-type: none"> ・近年 200 人前後の転出超過推移 ・転入は近年 800 人前後で推移。転出は 1,000 人前後で推移 ・男女別人口純移動率 男女とも 10～14 歳→15～19 歳，15～19 歳→20～24 歳で大きくマイナス，男性は 20～24 歳→25～29 歳でプラスに転じるが，女性はマイナスで推移
子育て環境	<ul style="list-style-type: none"> ○保育所数：11 施設。入所者数は微減傾向で推移 ○定員充足率：低下傾向で，H28 は 83.6%
学校教育	<ul style="list-style-type: none"> ○幼稚園 <ul style="list-style-type: none"> ・園児数：H21 以降，減少傾向 ・教員一人当たり園児数：県内市部で最も高く，県平均を大きく上回る。 ○小学校 <ul style="list-style-type: none"> ・学校数：H27 以降は 9 校 ・児童数：減少傾向。H28 は 1,133 人 ・教員 1 人当たり児童数：県内で 4 番目に低い。 ・学力の推移：全科目で県平均以上 ・体力：（男子）概ね全国平均。（女子）概ね全国平均以上で推移 ・不登校：H26 は県平均を上回るが，H27 以降は県平均を下回る。 ○中学校 <ul style="list-style-type: none"> ・学校数：4 校で変化なし ・児童数：減少傾向 ・教員 1 人当たり児童数：県内で 5 番目に低い。 ・学力の推移：教科別通過率は英語を除き県平均 ・体力：男女とも概ね全国平均で推移 ・不登校：県平均を超える水準で推移 ○高校 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒数：減少傾向で推移 ・1 校当たり生徒数：県平均を大きく下回る。 ・教員一人当たり生徒数：県平均を大きく下回る。 ・大学進学率：半数近くが大学に進学するが県内平均よりは低い。 ・就職率：県平均以下。県内他市比較では最低
産業・雇用	<ul style="list-style-type: none"> ○市内総生産の推移は，広島県内と比較して低水準。第 2 次産業，第 3 次産業は増加している。 ○産業別では，建設業，電気・ガス・水産業・廃棄物処理業が非常に高い。 ○有効求人倍率 県内瀬戸内沿岸地域と比較するとやや低い傾向
農林水産業	<ul style="list-style-type: none"> (1) 農業 <ul style="list-style-type: none"> ○総農家数 <ul style="list-style-type: none"> ・この 25 年間で約 1,000 戸が減少。販売農家の減少が顕著 ・自営農業従事者数：4 千人以上減少 ○耕作放棄地は，ほぼ横ばいで推移 ○販売農家の農地面積は減少。自給的農家の面積は微増で推移 ○農業出荷額：100 億円程度で推移。果実，いも類，畜産が高い。 (2) 林業 <ul style="list-style-type: none"> ○林家数は減少傾向で推移。林野面積は横ばいで推移 (3) 漁業 <ul style="list-style-type: none"> ○漁業経営体数：減少傾向。32 経営体 ○就業者数：減少傾向。漁獲量は，H 20 以降，減少

区分	現状を示す統計値等
商工業	<p>(1) 製造業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事業所数：減少傾向で推移。H27は52事業所 ○従業者数：減少傾向、H20以降は1,600人であり、横ばいで推移 ○製造品出荷額等：H26から急激に低下 <ul style="list-style-type: none"> ・H27は742億円までに減少 ○産業分類別の製造品出荷額 <ul style="list-style-type: none"> ・食品製造業：120億円で推移。H27は、170.3億円と大きく増加 ・繊維：10億円で推移。H27は27億円に増加 <p>(2) 商業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事業所数：減少傾向で推移 ○従業者数：減少傾向で推移 ○年間販売額：減少傾向で推移したが、H26は増加に転じる。 ○卸売業：事業者数は横ばいで推移 ○小売業：事業者数・年間販売額とも減少傾向からH26は増加に転じる。 ○小売吸引力：他市町へ流出していたが、H26は流入に転じる。
観光振興	<ul style="list-style-type: none"> ○総観光客数 <ul style="list-style-type: none"> ・緩やかな増加傾向。H26に初めて100万人を上回る。 ・H27には過去最高で132万人。県内シェアは約2% ○観光消費額 <ul style="list-style-type: none"> ・H28に3億円。県内シェアは0.7%で推移 ○宿泊者数 <ul style="list-style-type: none"> ・H27には、31万人まで増加。H28には、27万人に減少 ・宿泊率は、県内平均より高く、近年2割程度で推移
医療施策	<p>【医療施設数等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○病院施設数 <ul style="list-style-type: none"> ・4病院で維持。人口1万人当たり病院数は、県平均を上回る。 ○一般診療 <ul style="list-style-type: none"> ・25施設で維持。人口1万人当たり一般診療所数は県平均と同水準 ○市内病床数 <ul style="list-style-type: none"> ・509床で推移。人口千人当たり病床数は、県平均14.32を上回る。 ○医師 <ul style="list-style-type: none"> ・近年微増傾向で推移 ※産婦人科、脳神経外科、放射線科を主な診療科目とする医師がいない。 <p>【医療費】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国保一人当たり医療費は全国平均をやや上回る。
高齢化対策	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者のいる夫婦のみ世帯：19.3% ○高齢者単独世帯：17.8% <ul style="list-style-type: none"> ※いずれも、県・全国と比較して高い。 ○老人福祉施設数：3施設。横ばいで推移 <ul style="list-style-type: none"> ・在所者数：定員に大きな変化なく、120人超の横ばいで推移 ○要介護認定者数：2千人程度で推移
障害者施策	<ul style="list-style-type: none"> ○障害者施設数：6施設 <ul style="list-style-type: none"> ・在所者数：200人前後で推移。H28は減少 ○身体障害者手帳所持者数 <ul style="list-style-type: none"> ・手帳所持者数：微減傾向 ・身体障害者手帳所持者数：各階級とも、微減傾向で推移 ○療育手帳所持者数：微増傾向で推移 ○精神障害者手帳所持者数：減少傾向で推移

(3) 市民意識（第6次竹原市総合計画策定に向けたアンケート調査結果概要）

① 調査概要

a. 調査の目的

第6次竹原市総合計画策定にあたっての基礎資料を得るため、市民の意向などを把握することです。

b. 調査対象

18歳以上の竹原市民3,000人（無作為抽出）

※若年層の意見を回収するため、若年層の抽出率を高めて実施した。なお、集計結果は抽出率を基にウエイトバック集計を実施した。

c. 調査日程

平成29年(2017)12月15日～回収締切：平成29年(2017)12月28日（平成30年(2018)1月18日分まで受付）

d. アンケート回収状況

回収数：924件 ※有効回収数：914件 回収率：30.61%

② 結果概要

a. 竹原市での暮らしの評価について

竹原市の住みやすさについて、「まあまあ住みやすい」が59.7%と最も多くなっており、「とても住みやすい」（14.0%）合わせると7割以上の人々が『住みやすい』と評価している。

竹原市について愛着を感じているかについて、「ある程度感じている」が57.7%と最も多く、「強く感じている」（16.5%）を合わせるとこちらも7割以上の人々が『愛着を感じる』と評価している。

図 住みよさについて

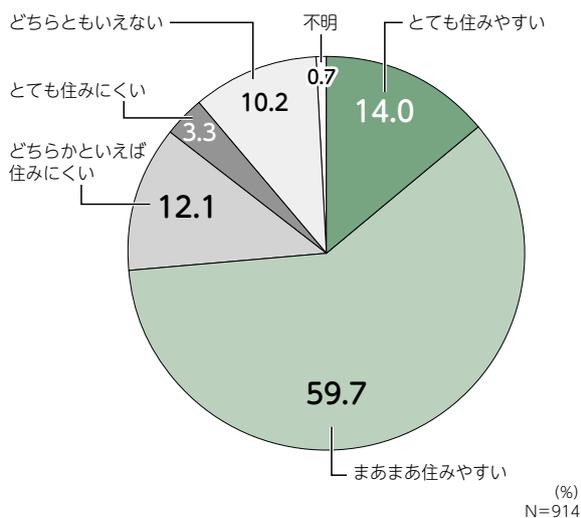
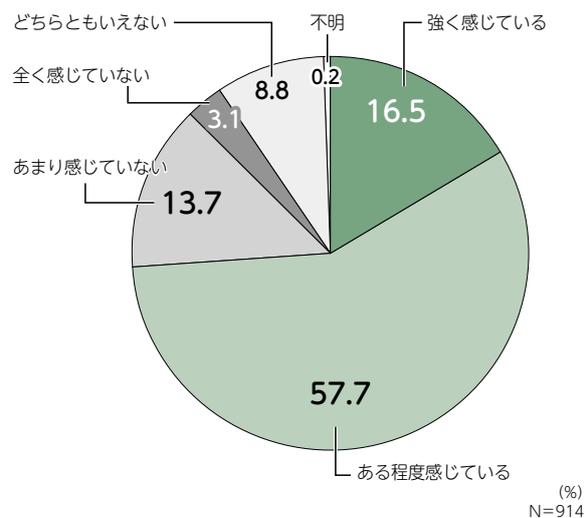


図 愛着度

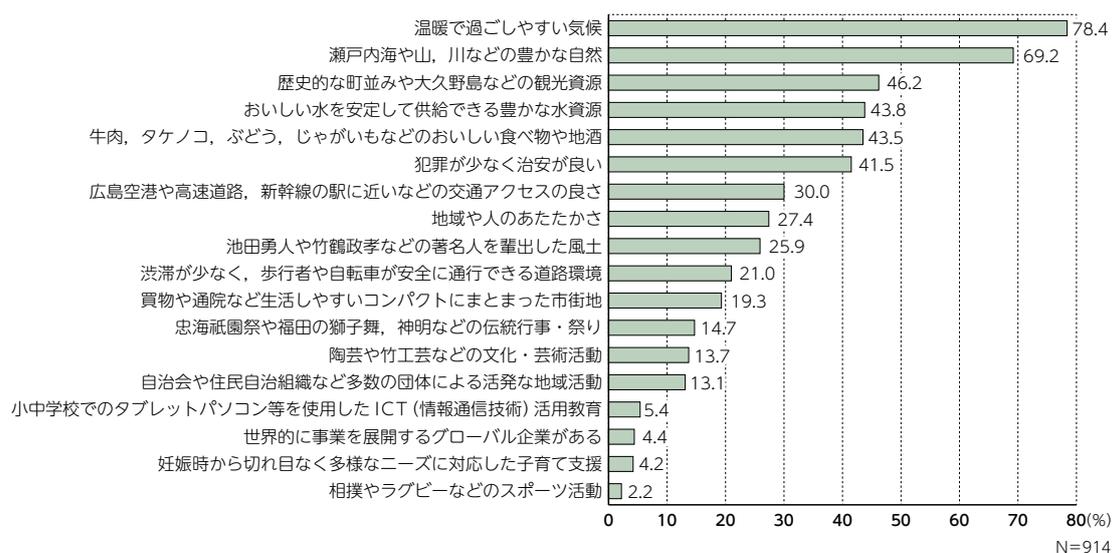


b. 竹原市の強み

竹原市の強み(良いところ)について、「温暖で過ごしやすい気候」が78.3%で最も高く、次いで「瀬戸内海や山、川などの豊かな自然」が69.3%と高い割合となっている。

また「歴史的な町並みや大久野島などの観光資源」が46.3%、「おいしい水を安定して供給できる豊かな水資源」が43.9%「牛肉、タケノコ、ぶどう、じゃがいもなどおいしい食べ物や地酒」が43.5%、「犯罪が少なく治安が良い」が41.5%となっている。

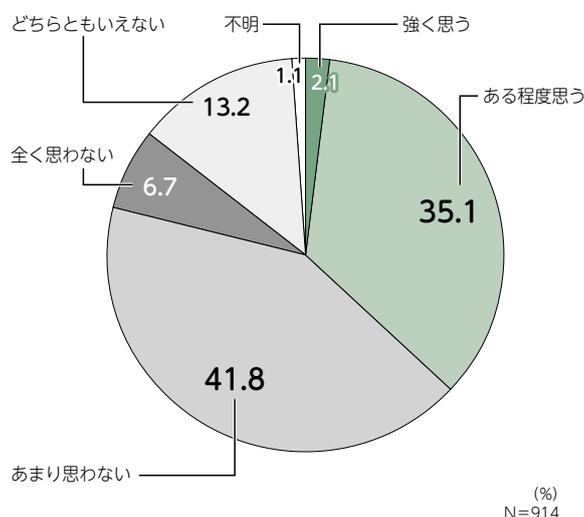
図 竹原市の強み



c. 他地域から移り住む人にとって、竹原市は魅力があるか

竹原市は他地域から移り住む人にとって、魅力あるまちであるかについて、「あまり思わない」が41.8%と最も多くなっており、次いで「ある程度思う」が35.1%となっている。

図 魅力あるまち

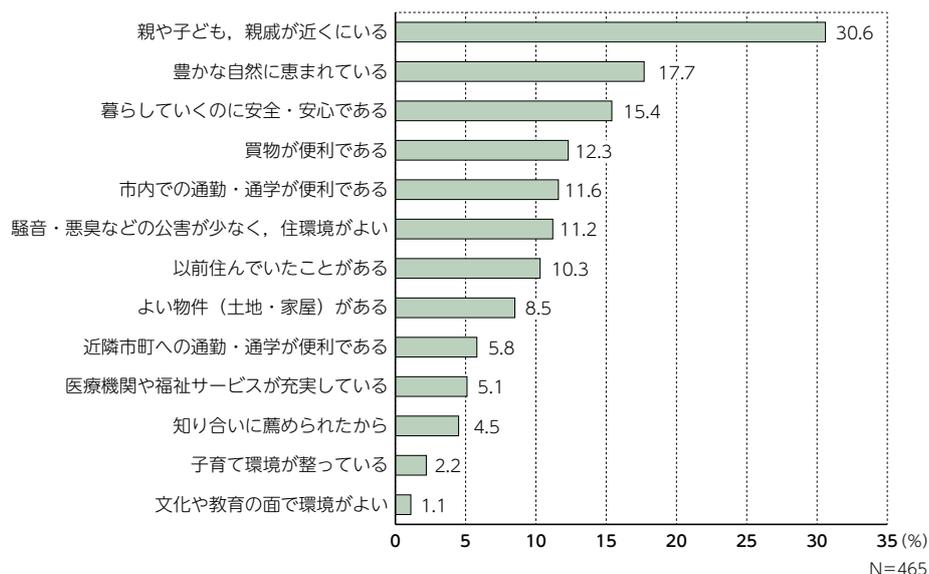


e. 移住経験者の居住地で重視する要素

移住経験のある人に、竹原市に住む際に重視した点について、「親や子ども、親戚が近くにいる」が29.5%と最も高くなっている。

次いで「豊かな自然に恵まれている」が17.0%、「暮らしていくのに安全・安心である」が14.8%となっており、環境面を重視していることがみうけられる。

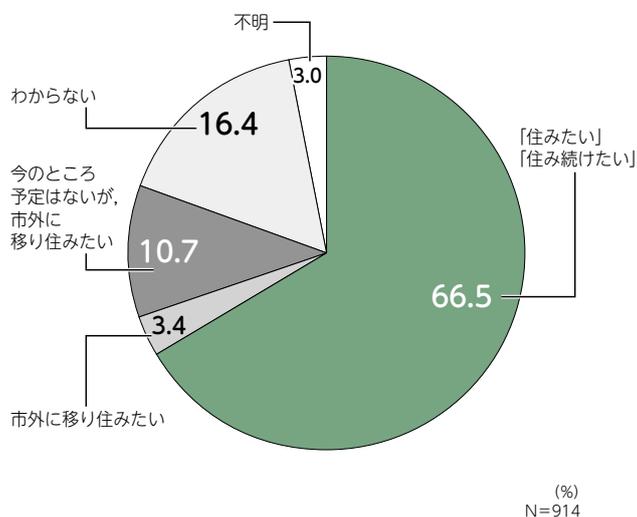
図 居住地で重視する要素



f. 今後の居留意向

今後も竹原市に住み続けたいかについて、「住みたい」「住み続けたい」が66.5%と過半数となっている。

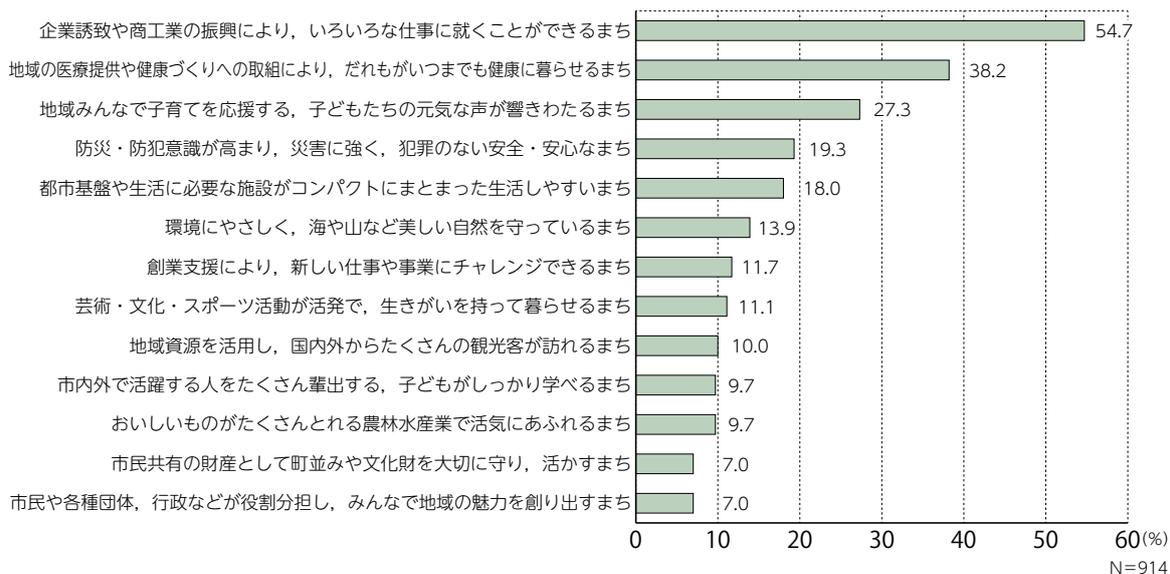
図 今後の居留意向



g. “魅力あるまち”となるために必要なこと

市外の人が竹原市で住みたいと思えるような魅力あるまちとなるために必要なことについて、「企業誘致や商工業の振興により、いろいろな仕事に就くことができるまち」が54.7%と最も高く、次いで「地域の医療提供や健康づくりへの取組により、だれもがいつまでも健康に暮らせるまち」が38.2%となっている。

図 “魅力あるまち”となるために必要なこと



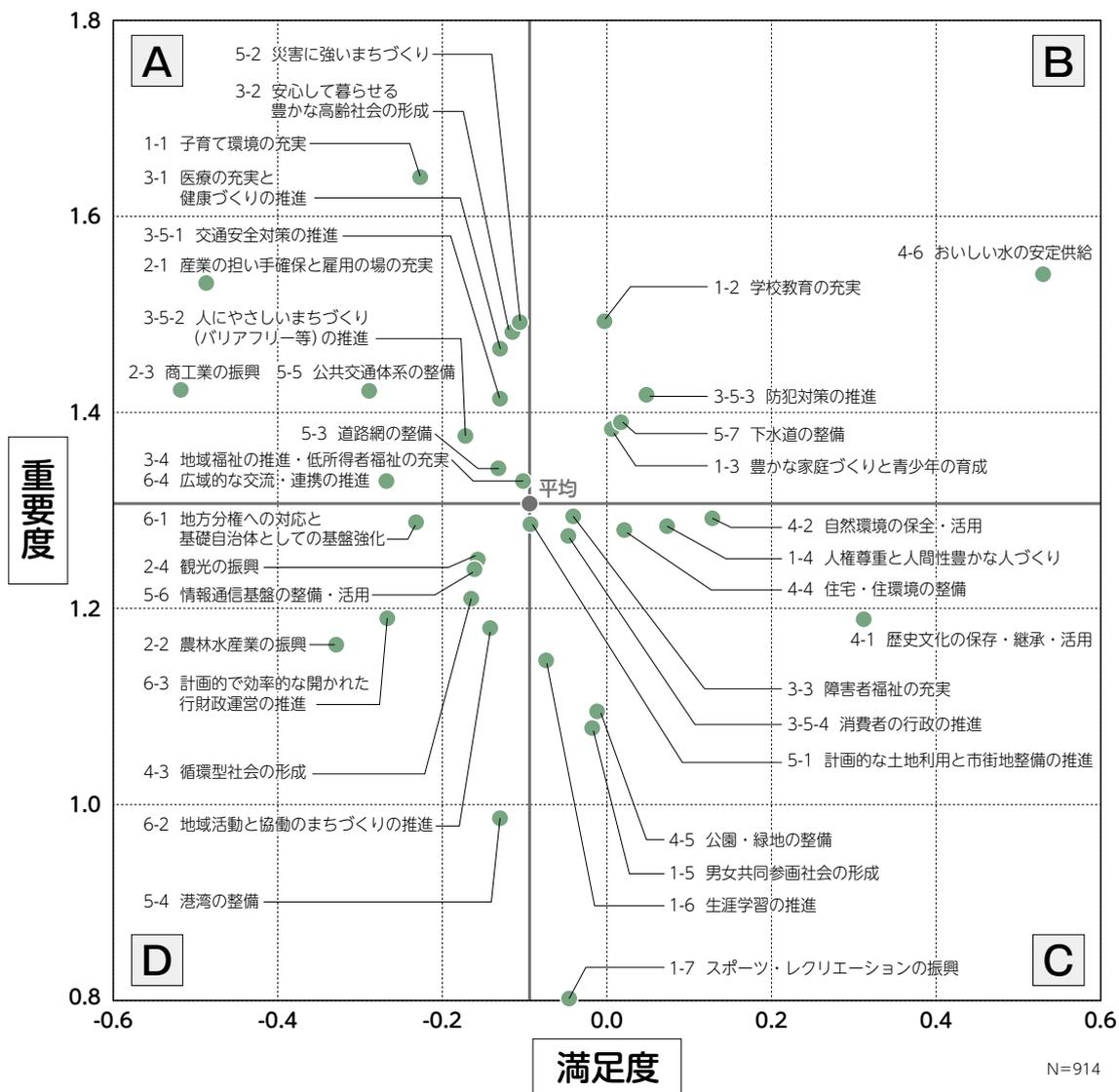
h. 竹原市で取り組んでいる分野別の満足度・重要度について

各基本施策の重要度と満足度について回答結果を得点化し、横軸を満足度、縦軸を重要度とする図から満足度・重要度の相関図を作成した。

全施策の満足度・重要度の平均値で区切られた各領域により、各施策の竹原市における位置づけをみた。

各施策の位置づけをみると、A領域（重点化・見直し領域）12 施策、B領域（現状維持領域）5 施策、C領域（現状維持・見直し領域）11 施策、D領域（改善・見直し領域）8 施策となった。

図 満足度・重要度の相関図



(注) 図中の太線は重要度・満足度の全施策平均値（満足度：-0.094 重要度：1.307）を示す。

A領域では、「1-1 子育て環境の充実」の重要度が高いことや、「2-1 産業の担い手確保と雇用の場の充実」の重要度がやや高く、満足度がやや低いこと、「2-3 商工業の振興」の満足度が低いことなどが目立つ。

B領域では、他の領域に比べて含まれる基本施策数が少なくなっていることがわかる。また、「4-6 おいしい水の安定供給」の重要度・満足度が高いことや、「1-2 学校教育の充実」の重要度がやや高いことなどが目立つ。

C領域では、「4-1 歴史文化の保存・継承・活用」の満足度が高いことや、「1-7 スポーツ・レクリエーションの振興」の重要度が低いことなどが目立つ。

D領域では、「5-4 港湾の整備」の重要度が低いことや、「2-2 農林水産業の振興」や「6-3 計画的で効率的な開かれた行財政運営の推進」の満足度が低いことが目立つ。

表 各基本施策の領域の位置づけ

<p style="text-align: center;">A領域（重点化・見直し領域）</p> <p>1-1 子育て環境の充実 2-1 産業の担い手確保と雇用の場の充実 2-3 商工業の振興 3-1 医療の充実と健康づくりの推進 3-2 安心して暮らせる豊かな高齢社会の形成 3-4 地域福祉の推進・低所得者福祉の充実 3-5-1 交通安全対策の推進 3-5-2 人にやさしいまちづくり(バリアフリー等)の推進 5-2 災害に強いまちづくり 5-3 道路網の整備 5-5 公共交通体系の整備 6-4 広域的な交流・連携の推進</p> <p style="text-align: right;">12 施策</p>	<p style="text-align: center;">B領域（現状維持領域）</p> <p>1-2 学校教育の充実 1-3 豊かな家庭づくりと青少年の育成 3-5-3 防犯対策の推進 4-6 おいしい水の安定供給 5-7 下水道の整備</p> <p style="text-align: right;">5 施策</p>
<p style="text-align: center;">D領域（改善・見直し領域）</p> <p>2-2 農林水産業の振興 2-4 観光の振興 4-3 循環型社会の形成 5-4 港湾の整備 5-6 情報通信基盤の整備・活用 6-1 地方分権への対応と基礎自治体としての基盤強化 6-2 地域活動と協働のまちづくりの推進 6-3 計画的で効率的な開かれた行財政運営の推進</p> <p style="text-align: right;">8 施策</p>	<p style="text-align: center;">C領域（現状維持・見直し領域）</p> <p>1-4 人権尊重と人間性豊かな人づくり 1-5 男女共同参画社会の形成 1-6 生涯学習の推進 1-7 スポーツ・レクリエーションの振興 3-3 障害者福祉の充実 3-5-4 消費者の行政の推進 4-1 歴史文化の保存・継承・活用 4-2 自然環境の保全・活用 4-4 住宅・住環境の整備 4-5 公園・緑地の整備 5-1 計画的な土地利用と市街地整備の推進</p> <p style="text-align: right;">11 施策</p>

i. 概ね 10 年前との比較

概ね 10 年前と比較して良くなったか、悪くなったかをみると、基本施策では、「4-1 歴史文化の保存・継承・活用」で『良くなった』（「良くなった」＋「やや良くなった」）と回答した人が 47.4% で最も多くなっている。そのほか、「5-7 下水道の整備」（38.8%）、「4-6 おいしい水の安定供給」（35.3%）、「5-1 計画的な土地利用と市街地整備の推進」（34.7%）は『良くなった』が 3 分の 1 以上を占めている。

一方、「1-1 子育て環境の充実」では『悪くなった』（「悪くなった」＋「やや悪くなった」）と回答した人が 39.8% となっているほか、「2-3 商工業の振興」（36.9%）や「2-1 産業の担い手確保と雇用の場の充実」（24.7%）、「2-2 農林水産業の振興」（21.1%）でも 2 割以上の人々が『悪くなった』と回答している。

なお、「めざす目標」の指標として設定している 14 項目では、「4-2（ごみの減量や省エネ対策など）」（46.2%）、「3-2（高齢者が元気に活躍されている）」（34.8%）で『良くなっている』と回答した人が多くなっているが、「2-1（雇用対策）」（28.0%）、「5-5（鉄道（JR 呉線）の利便性に満足している）」（26.4%）では『悪くなっている』と回答した人が多くなっている。

図 概ね 10 年前との比較

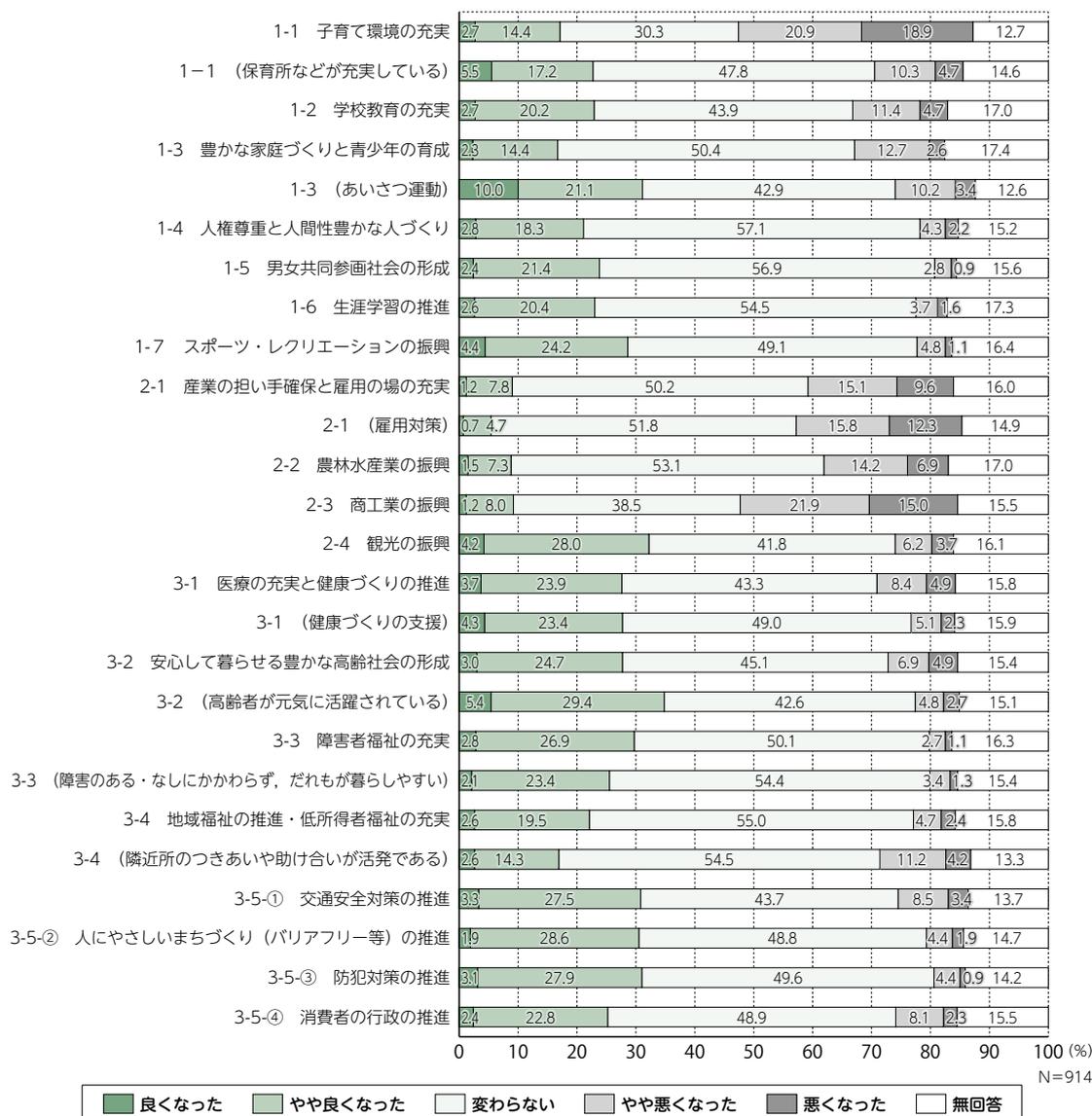
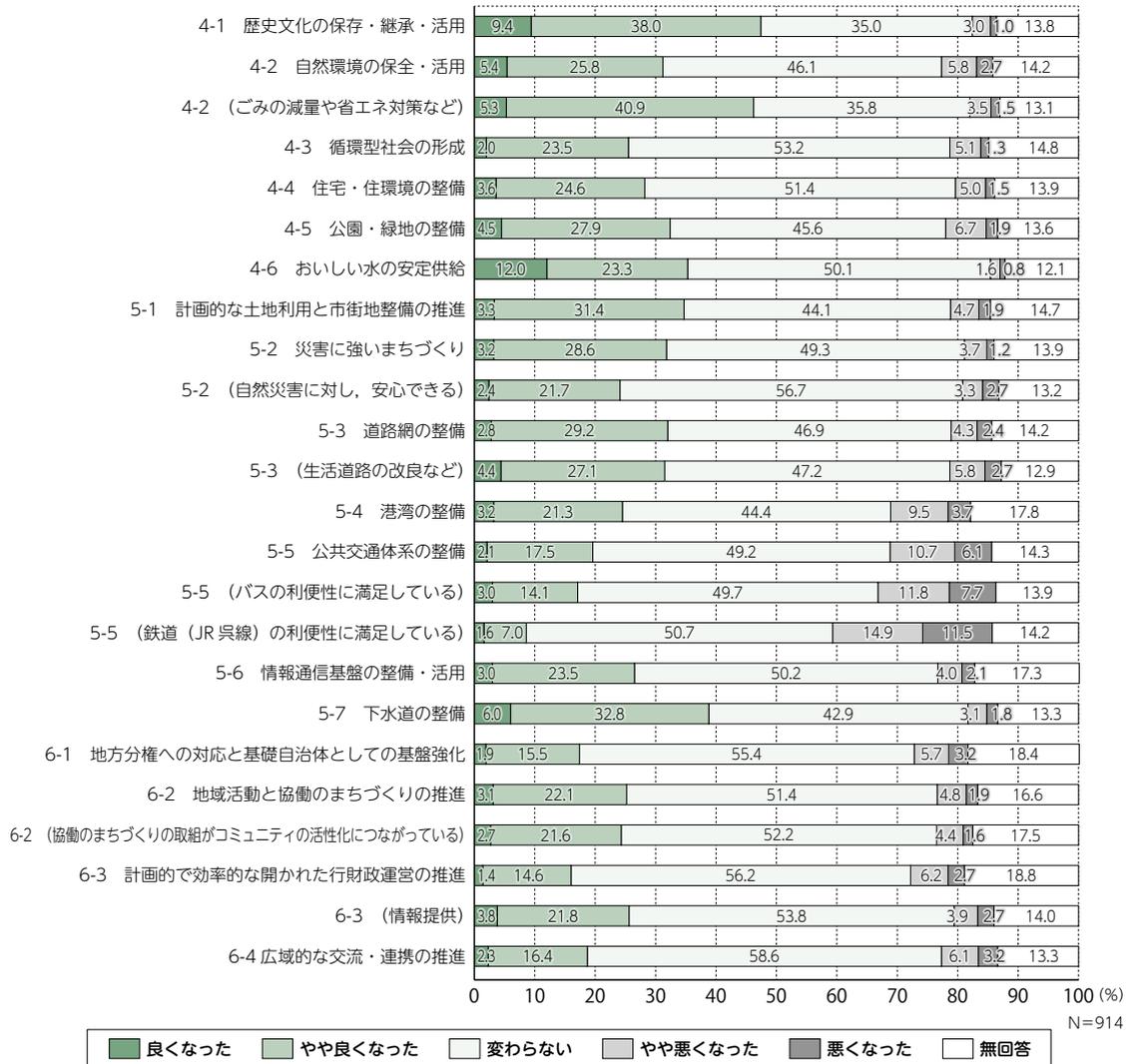


図 概ね 10 年前との比較 (つづき)



(参考資料) 第6次竹原市総合計画策定に向けたアンケート調査票

アンケート調査票

第6次竹原市総合計画策定に向けたアンケート調査

日頃から市政に対しご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。
さて、竹原市では、平成21年に「第5次竹原市総合計画」を策定し、竹原市の将来像『住みよき美感 瀬戸内交流文化都市 たけはら』を目指したまちづくりを市民の皆さまと共に取り組んでおります。
この「第5次竹原市総合計画」が平成30年度に終了することから、新しい総合計画を策定するにあたり、これまでの10年間を皆さまの視点で振り返るとともに、平成31年度からの10年間のまちづくりについて、皆さまの夢やアイデア、ご意見を反映していきたいと考えております。
そこで、竹原市にお住まいの18歳以上の皆さまの中から、無作為に抽出した3,000人を対象に、アンケート調査をお願いすることにいたしました。
このアンケート調査は無記名で、調査の結果は統計的に処理しますので、個人が特定されることはなく、皆さまにご迷惑をおかけすることはありません。
なお、アンケート調査の集計結果は、竹原市ホームページ上で掲載する予定としています。お忙しい時期とは存じますが、趣旨をご理解いただき、調査へのご協力をお願いいたします。

平成29年12月
竹原市長 吉田 基

■ご記入に当たってのお願い

1 この調査票は、**封筒のあて名の方**に回答をお願いいたします。
(事情によって、ご本人がご記入できない場合は、代理の方が聞き取りによりご記入されるか、代わりの世帯員の方がご記入ください。)

2 各設問の回答は、当てはまる**選択肢の番号に○印**を付けてください。(1つの場合と複数場合があります。)
「その他」を選ばれた場合は、必要に応じて「()」に内容などをご記入ください。
また、ご自由に記入していただく欄があります。

■調査票の回収
ご記入いただきました調査票は、おそれいりますが平成29年**12月28日(木)**までに、**同封してあります返信用封筒(切手を貼る必要はありません)**にてお送りください。

■問い合わせ先
〒725-8666 竹原市中央五丁目1番35号
竹原市企画振興部企画政策課 電話(0846)22-0942 (担当: 森本)

1 あなたご自身のことについて

問1 次の1-1~1-7について、それぞれあてはまるものをお答えください。
(それぞれ○印は1つ)

1-1 性別は?	1 男性	2 女性				
1-2 年齢は?	1 18~19歳	2 20~29歳	3 30~39歳			
	4 40~49歳	5 50~59歳	6 60~69歳			
	7 70~79歳	8 80歳以上				
1-3 お住まいの地区は?	1 竹原地区(竹原町, 下野町, 小栗町を含む)					
	2 北部地区(東野町, 新庄町, 西野町, 仁賀町, 田万里町)					
	3 吉名地区					
	4 大乗地区(高崎町, 福田町)					
	5 忠海地区					
1-4 竹原市での居住年数は? <small>※市外に出生した経験のある方は、竹原市での合計の年数</small>	1 5年未満		2 5年~10年未満			
	3 10年~20年未満		4 20年~30年未満			
	5 30年以上					
	1-5 家族の人数は?(あなた自身を含む)	1 1人(単身世帯)	2 2人	3 3人		
		4 4人	5 5人	6 6人以上		
1-6 65歳以上の方は?(あなた自身を含む)	1 いる		2 いない			
1-7 乳児~小学生の方は?	1 いる		2 いない			

2 竹原市での暮らしの評価について

問2 竹原市は住みやすいですか?

1 とても住みやすい	2 まあまあ住みやすい
3 どちらかといえば住みにくい	4 とても住みにくい
5 どちらともいえない	

問3 竹原市に愛着を感じていますか?

1 強く感じている	2 ある程度感じている
3 あまり感じている	4 全く感じている
5 どちらともいえない	

- 1 -

問4 竹原市の強み(良いところ)は何ですか? (該当するものに○印(いくつでも))

- 1 瀬戸内海や山、川などの豊かな自然
- 2 温暖で過ごしやすい気候
- 3 歴史的な町並みや大久野島などの観光資源
- 4 池田勇人や竹鶴政孝などの著名人を輩出した風土
- 5 忠海祇園祭や福田の獅子舞、神明などの伝統行事・祭り
- 6 陶芸や竹工芸などの文化・芸術活動
- 7 相撲やラグビーなどのスポーツ活動
- 8 牛肉、タケノコ、ぶどう、じゃがいもなどのおいしい食べ物や地酒
- 9 世界的に事業を展開するグローバル企業がある
- 10 おいしい水を安定して供給できる豊かな水資源
- 11 妊娠時から切れ目なく多様なニーズに対応した子育て支援
- 12 小中学校でのタブレットパソコン等を使用したICT(情報通信技術)活用教育
- 13 買物や通院など生活しやすいコンパクトにまとまった市街地
- 14 広島空港や高速道路、新幹線の駅に近いなどの交通アクセスの良さ
- 15 渋滞が少なく、歩行者や自転車が安全に通行できる道路環境
- 16 犯罪が少なく治安が良い
- 17 自治会や住民自治組織など多数の団体による活発な地域活動
- 18 地域や人のあたたかさ
- 19 その他(思いつくもの全てをご記入ください)

問5 竹原市は他地域から移り住む人にとって、魅力あるまちだと思いますか?

1 強く思う	2 ある程度思う
3 あまり思わない	4 全く思わない
5 どちらともいえない	

問6 問5で魅力があると思うと答えた方は、その魅力は何だと思いますか? また、その魅力を将来に引き継いでいくためには、どのような取組が必要だと思いますか? 問5で魅力があると思わないと答えた方は、今後魅力あるまちにするために必要なものは何だと思いますか? (ご自由にお書きください)

3 定住意識について

問7 あなたが竹原市に住まわれたきっかけは何ですか? (1つだけに○印)

1 ずっと竹原市に住んでいる	2 就職・転職	3 仕事の都合	4 進学
5 親や子、孫との同居・近居	6 親や親戚等の介護	7 結婚	8 妊娠・出産
9 子育て	10 田舎暮らしへの憧れ	11 定年退職・早期退職	12 その他()

問8 問7で「1」以外を選ばれた方におたずねします。住まわれる際に重視されたことは何ですか? (3つまでに○印)

- 1 豊かな自然に恵まれている
- 2 市内での通勤・通学が便利である
- 3 近隣市町への通勤・通学が便利である
- 4 買物が便利である
- 5 以前住んでいたことがある
- 6 文化や教育の面で環境が良い
- 7 医療機関や福祉サービスが充実している
- 8 子育て環境が整っている
- 9 騒音・悪臭などの公害が少なく、住環境が良い
- 10 親や子ども、親戚が近くにいる
- 11 暮らしていくのに安全・安心である
- 12 行政情報等の情報が分かりやすく入手できる
- 13 よい物件(土地・家屋)がある
- 14 知り合いに薦められたから
- 15 その他()

- 3 -

問9 あなたは、これからも竹原市に「住みたい」「住み続けたい」ですか？ (1つだけに○印)

1 「住みたい」「住み続けたい」 → 問10へ
 2 市外に移り住む予定がある → 問11へ
 3 今のところ予定はないが、市外に移り住みたい → 問11へ
 4 わからない → 問14以降へ

<問9で「1」を選ばれた方> <問9で「2」または「3」を選ばれた方>

問10 「住みたい」「住み続けたい」理由は何ですか？ (主な理由3つまで○印)

1 住み慣れた地域に愛着がある
 2 近所づきあいなど地域の人のつながりがある
 3 親、兄弟や親戚が近くにいる
 4 親などの介護や面倒をみる必要がある
 5 自分の土地や家がある
 6 住宅に満足している(家賃、広さ、設備など)
 7 自然環境、気候に恵まれている
 8 上下水道や道路、公園等の基盤が整っている
 9 医療や福祉サービスが充実している
 10 子育てしやすい
 11 教育や文化活動の環境が良い
 12 買い物や通勤・通学などが便利
 13 安全・安心で豊かな食料と食文化がある
 14 治安や風気がよい
 15 仕事や事業・商売の都合が良い(都合がある)
 16 その他()

問11 「市外に移り住む」または「市外に移り住みたい」理由は何ですか？ (主な理由3つまで○印)

1 地域に愛着や魅力を感じない
 2 近所づきあいなどが近くにない
 3 親、兄弟や親戚などから遠い(親などが他の市町村にいます)
 4 竹原市では親などの介護や面倒をみるのが難しい
 5 他の市町村に自分の土地や家がある(または、これから購入する)
 6 住宅に不満がある(家賃、広さ、設備など)
 7 自然環境に恵まれていない
 8 上下水道や道路、公園等の基盤が整っていない
 9 医療や福祉サービスが充実していない
 10 子育てにくい
 11 教育や文化活動の環境が整っていない
 12 買い物や通勤・通学などが不便
 13 治安や風気が悪い
 14 職种(転勤など)や事業・商売の都合で移転する必要がある
 15 進学や就職、結婚など家庭の事情
 16 市外の親戚等(子世代)との関係
 17 その他()

<問9で「2」または「3」を選ばれた方>

問12 あなたは、今後、竹原市外に移り住んだとした場合、いずれは竹原市にもどって住みたい(Uターンしたい)と思いますか？ (1つだけに○印)

1 是非とも竹原市にもどって住みたい → 問13へ
 2 できれば竹原市にもどって住みたい → 問13へ
 3 竹原市にもどって住むことは考えていない → 問14へ
 4 わからない → 問14へ

<問12で「1」または「2」を選ばれた方>

問13 あなたは、なぜ竹原市にもどって住みたいと思いますか？ (3つまでに○印)

1 住み慣れた地域に愛着がある
 2 近所づきあいなど地域の人のつながりがある
 3 親、兄弟や親戚が近くにいる
 4 親などの介護や面倒をみる必要がある
 5 自分の土地や家がある
 6 住宅に満足している(家賃、広さ、設備など)
 7 自然環境、気候に恵まれている
 8 上下水道や道路、公園などの基盤が整っている
 9 医療や福祉サービスが充実している
 10 子育てしやすい
 11 教育や文化活動の環境が良い
 12 買い物や通勤・通学などが便利
 13 安全・安心で豊かな食料と食文化がある
 14 治安や風気がよい
 15 仕事や事業・商売の都合が良い(都合がある)
 16 その他()

4. 竹原市の将来について

問14 人口減少や少子高齢化など様々な課題を抱える中、今お住まいの皆さまだけでなく、市外へ出た人が竹原にもどり、市外の人に住みたいと思うような「魅力あるまち」となるためには、何が必要だと思いますか？イメージに近いものを選んでください。(3つまでに○印)

1 地域みんなで子育てを応援する、子どもたちの元気な声が響きわたるまち
 2 市内外で活躍する人をたくさん輩出する、子どもがしっかり学べるまち
 3 芸術・文化・スポーツ活動が活発で、生きがいを持って暮らせるまち
 4 企業誘致や商工業の振興により、いろいろな仕事に就くことができるまち
 5 創業支援により、新しい仕事や事業にチャレンジできるまち
 6 おいしいものがたくさんとれる農林水産業で活気にあふれるまち
 7 地域資源を活用し、国内外からたくさん観光客が訪れるまち
 8 地域の医療提供や健康づくりへの取組により、だれもがいつまでも健康に暮らせるまち
 9 市民共有の財産として町並みや文化財を大切に守り、活かすまち
 10 環境にやさしく、海や山など美しい自然を守っているまち
 11 都市基盤や生活に必要な施設がコンパクトにまとまった生活しやすいまち
 12 防災・防犯意識が高まり、災害に強く、犯罪のない安全・安心なまち
 13 市民や各種団体、行政などが役割分担し、みんなで地域の魅力を創り出すまち
 14 その他()

5. 竹原市で取り組んでいる分野別の満足度・重要度について

問15 竹原市での暮らしに関して、現在の評価(満足度)はどうか？また、概ね10年前と比べてどうなりましたか？さらに今後、市が行う取組での重要度はどうか？(10年前に住んでおられない方は、以前と比べてお答えください。)(それぞれ○印は1つ)

設問	現状の評価(満足度)				概ね10年前と比べて					今後の重要度			
	満足	やや満足	まあ満足	不満	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
記入例 1. 安心して子どもを産み育てることができる【子育て環境の充実】	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4
1-①. 安心して子どもを産み育てることができる【子育て環境の充実】	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4
1-②. 保育所(園)・幼稚園などが充実している	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4
2. 知・徳・体のバランスのとれた子どもが育っている【学校教育の充実】	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4
3-①. 青少年が家庭や地域のあたたかきを感じながら成長している【豊かな家庭づくりと青少年の育成】	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4
3-②. 地域の子どもは元気よくあいきつしている【あいきつ運動】	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4
4. 一人ひとりの人権が大切にされるまちになっている【人権尊重と人権性豊かなまちづくり】	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4
5. 男女の自立と平等の理念に基づき男女共同参画が進んでいる【男女共同参画社会の形成】	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4
6. 学びの成果が社会に活かされている【生涯学習の推進】	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4

設問	現状の評価(満足度)				概ね10年前と比べて					今後の重要度			
	満足	やや満足	まあ満足	不満	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑	↑
7. だれもがスポーツ・レクリエーションに親しんでいる【スポーツ・レクリエーションの振興】	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4
1-①. 産業振興による雇用拡大で元気なまちになっている【産業の担い手確保と雇用の充実】	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4
1-②. 竹原市の地元の若者や他地域から移り住む人にとって魅力的な就労の場がある【雇用対策】	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4
2. 地域の活力を高める農林水産業が盛まっている【農林水産業の振興】	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4
3. 商工業が栄えた元気なまちになっている【商工業の振興】	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4
4. 個性ある資源を活かし、人が集い、交流が活発に行われている【観光の振興】	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4
1-①. 健康に向けた人づくり・まちづくりが進んでいる【医療の充実と健康づくりの推進】	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4
1-②. 自分の健康づくりについて、積極的に取り組んでいることがある【健康づくりの支援】	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4
2-①. 高齢者が安心して暮らすことができる【安心して暮らせる豊かな高齢社会の形成】	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4
2-②. 高齢者が元気に活躍されている	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4

設問	現状の評価 (満足度)				概ね10年前と比べて					今後の重要度				
	満足	やや満足	まあまあ	不満	かなり向上	向上	ほぼ同じ	やや低下	かなり低下	かなり重要	重要	まあまあ	あまり重要でない	重要でない
3-①、ともに生きるやすらぎと支えあい生まれている【障害者福祉の充実】	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4	
3-②、障害のある・なしにかかわらず、だれもが暮らしやすい	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4	
4-①、地域で支えあい、助けあう社会が築かれている【地域福祉の推進・低所得者福祉の充実】	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4	
4-②、隣近所のつきあいや助け合いが活発である	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4	
5-①、道路や交通安全施設が整い、歩行者等に安心なまちになっている【交通安全対策の推進】	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4	
5-②、みんなが安心して暮らせるまちづくりが進んでいる【人・やさしいまちづくり（バリアフリー等）の推進】	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4	
5-③、防犯活動が推進され、安心して暮らせるまちになっている【防犯対策の推進】	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4	
5-④、消費者が安心して生活できるまちが築かれている【消費者行政の推進】	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4	
1、竹原の歴史文化や町並みが守られ、活かされている【歴史文化の保存・継承・活用】	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4	
2-①、瀬戸内海や水辺、山々などの自然が守られ、活かされている【自然環境の保全・活用】	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4	

設問	現状の評価 (満足度)				概ね10年前と比べて					今後の重要度				
	満足	やや満足	まあまあ	不満	かなり向上	向上	ほぼ同じ	やや低下	かなり低下	かなり重要	重要	まあまあ	あまり重要でない	重要でない
2-②、地球温暖化防止のために心がけていることがある【ごみの減量や省エネ対策など】	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4	
3、日本一きれいなまち、環境にやさしいまちづくりが進んでいる【循環型社会の形成】	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4	
4、安心して健康的に暮らせ、住みよさが実感できる住まいがある【住宅・住環境の整備】	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4	
5、公園及び自然を活用したふれあいの空間が育てられている【公園・緑地の整備】	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4	
6、安全で安心できる水が安定して供給されている【おいしい水の安定供給】	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4	
1、安心して快適に暮らせる市街地对面的に整備されている【計画的な土地利用と市街地整備の推進】	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4	
2-①、市民の防災意識が高まり、災害に強いまちづくりが進んでいる【災害に強いまちづくり】	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4	
2-②、自然災害に対し、安心できる	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4	
3-①、人の交流を深める道路網の健全な推進している【道路網の整備】	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4	
3-②、生活道路の利便性に満足している【生活道路の改良など】	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4	

設問	現状の評価 (満足度)				概ね10年前と比べて					今後の重要度				
	満足	やや満足	まあまあ	不満	かなり向上	向上	ほぼ同じ	やや低下	かなり低下	かなり重要	重要	まあまあ	あまり重要でない	重要でない
4、港では、いきいきと人が行き交い、交流している【港湾の整備】	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4	
5-①、安心して暮らせる交通手段が確保されている【公共交通体系の整備】	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4	
5-②、バスの利便性に満足している	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4	
5-③、鉄道（JR呉線）の利便性に満足している	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4	
6、情報通信基盤が整い、活かされている【情報通信基盤の整備・活用】	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4	
7、公共下水道の整備や合併浄化槽の設置が進み、川や海の水質が良くなっている【下水道の整備】	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4	
1、市民や地域のニーズに即した行政運営を行っている【地方分権への対応と基盤自治体としての基盤強化】	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4	
2-①、みんなが知恵と汗を出し、住みよいまちづくりが進められている【地域活動と協働のまちづくりの推進】	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4	
2-②、協働のまちづくりの取組がコミュニティの活性化につながっている	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4	
3-①、計画的で効率的な開かれた行政活動を進めている【計画的で効率的な開かれた行政運営の推進】	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4	
3-②、竹原市の市政の情報は、市民によく伝わっている【情報提供】	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4	

設問	現状の評価 (満足度)				概ね10年前と比べて					今後の重要度				
	満足	やや満足	まあまあ	不満	かなり向上	向上	ほぼ同じ	やや低下	かなり低下	かなり重要	重要	まあまあ	あまり重要でない	重要でない
4、国・県や周辺自治体などと連携した取組を、効果的に展開している【広域的な交流・連携の推進】	1	2	3	4	1	2	3	4	5	1	2	3	4	

6 竹原市のまちづくりなどについて、ご意見・ご提案などがありましたら、ご自由にお書きください。（自由記入欄）

第5次竹原市総合計画 総括 「めざす目標」の達成状況

評価方法

「めざす目標」を次の評価区分により評価

評価区分	評価の内容
達成	めざす値を既に達成しているもの（達成が見込めるものを含む）
概ね達成	めざす値は達成していないが、基準年度と比較し、数値が改善しているもの
やや未達成	めざす値は達成していないが、基準年度と比較し、ほぼ現状を維持しているもの（取り組めていないものを除く）
未達成	めざす値が達成できず、基準年度と比較し、数値が悪化しているもの（取り組めていないものを含む）

○施策の基軸別の評価結果

章	施策の基軸	基本 施策数	めざす 目標 設定数 A	評価区分				達成率 (B+C)/A
				達成 B	概 ね 達 成 C	や や 未 達 成	未達成	
1	子どもが夢をもち人が輝くまちづくりへの挑戦	7	22	11	1	2	8	54.5%
2	人が集まる元気なまちづくりへの挑戦	4	7	5	0	0	2	71.4%
3	健やかで支えあう安心のまちづくりへの挑戦	8	12	1	6	4	1	58.3%
4	竹原のもつ住みよい環境づくりへの挑戦	6	7	2	1	2	2	42.8%
5	安全でしっかりとした都市基盤づくりへの挑戦	7	13	7	0	2	4	53.8%
6	みんなで築くまちづくりへの挑戦	4	7	4	2	0	1	85.7%
計		36	68	30	10	10	18	58.8%

○基本施策別の評価結果

節	基本施策	めざす 目標 設定数 A	評価区分			
			達成 B	概ね 達成 C	やや 未達成	未達成
1	子どもが夢をもち人が輝くまちづくりへの挑戦	22	11	1	2	8
1	子育て環境の充実	2	2	0	0	0
2	学校教育の充実	14	7	1	0	6
3	豊かな家庭づくりと青少年の育成	1	0	0	1	0
4	人権尊重と人間性豊かな人づくり	1	1	0	0	0
5	男女共同参画社会の形成	1	1	0	0	0
6	生涯学習の推進	2	0	0	1	1
7	スポーツ・レクリエーションの振興	1	0	0	0	1
2	人が集まる元気なまちづくりへの挑戦	7	5	0	0	2
1	産業の担い手の確保と雇用の場の拡充	1	1	0	0	0
2	農林水産業の振興	3	2	0	0	1
3	商工業の振興	2	1	0	0	1
4	観光の振興	1	1	0	0	0
3	健やかで支えあう安心のまちづくりへの挑戦	12	1	6	4	1
1	医療の充実と健康づくりの推進	3	0	1	1	1
2	安心して暮らせる豊かな高齢社会の形成	1	0	1	0	0
3	障害者福祉の充実	1	0	1	0	0
4	地域福祉の推進・低所得者福祉の充実	1	0	0	1	0
5-1	交通安全対策の推進	2	1	0	1	0
5-2	人にやさしいまちづくりの推進（※ 3-3 再掲）	1	0	1	0	0
5-3	防犯対策の推進	2	0	1	1	0
5-4	消費者行政の推進（※ 5-3 「特殊詐欺被害件数」再掲）	1	0	1	0	0
4	竹原のもつ住みよい環境づくりへの挑戦	7	2	1	2	2
1	歴史文化の保存・継承・活用	2	1	0	0	1
2	自然環境の保全・活用	1	0	0	1	0
3	循環型社会の形成	1	1	0	0	0
4	住宅・住環境の整備	1	0	1	0	0
5	公園・緑地の整備	1	0	0	1	0
6	おいしい水の安定供給	1	0	0	0	1
5	安全でしっかりとした都市基盤づくりへの挑戦	13	7	0	2	4
1	計画的な土地利用と市街地整備の推進	1	0	0	1	0
2	災害に強いまちづくり	3	2	0	0	1
3	道路網の整備	1	0	0	0	1
4	港湾の整備	1	0	0	0	1
5	公共交通体系の整備	2	2	0	0	0
6	情報通信基盤の整備・活用	3	2	0	0	1
7	下水道の整備	2	1	0	1	0
6	みんなで築くまちづくりへの挑戦	7	4	2	0	1
1	地方分権への対応と基礎自治体としての基盤強化	2	1	1	0	0
2	地域活動と協働のまちづくりの推進	2	1	0	0	1
3	計画的で効率的な開かれた行財政運営の推進	1	0	1	0	0
4	広域的な交流・連携の推進（※ 5-6 再掲）	2	2	0	0	0

5 平成 30 年 7 月豪雨災害関連資料 (平成 31 年 (2019) 1 月 29 日現在)

1

気象状況

(1) 期間降雨量 (平成 30 年 (2018) 7 月 3 日 0 時～ 8 日 12 時)

(単位: mm)

7/3	7/4	7/5	7/6	7/7	7/8	計
7.0	0.5	99.5	216.5	117.0	25.0	465.5

- 24 時間降水量は観測史上最大の 283 mm (期日: 7 月 7 日) を記録

(2) 警報

対象地域	種別	発表日時	解除日時
竹原市全域	大雨警報 (土砂災害)	7 月 6 日 (金) 5 時 40 分	7 月 9 日 (月) 4 時 23 分
竹原市全域	洪水警報	7 月 6 日 (金) 10 時 06 分	7 月 9 日 (月) 4 時 23 分
竹原市全域	土砂災害警戒情報	7 月 6 日 (金) 17 時 50 分	7 月 9 日 (月) 4 時 00 分
竹原市全域	大雨特別警報	7 月 6 日 (金) 20 時 25 分	7 月 7 日 (土) 10 時 50 分

2

避難情報

(1) 避難情報の発令

対象地域	避難情報の種類	発令日時	解除日時
竹原市全域	避難準備・高齢者等避難開始	7 月 6 日 (金) 15 時 00 分	—
竹原市全域	避難勧告	7 月 6 日 (金) 17 時 50 分	—
竹原市全域	避難指示 (緊急)	7 月 6 日 (金) 21 時 00 分	7 月 9 日 (月) 14 時 00 分
新庄町, 東野町, 港町五丁目の一部	避難勧告	7 月 9 日 (月) 14 時 00 分	7 月 18 日 (水) 17 時 00 分
吉名町観音谷	避難指示 (緊急) (ため池決壊のおそれ)	7 月 11 日 (水) 18 時 27 分	7 月 12 日 (木) 11 時 45 分

(2) 避難所の状況

区分	避難所数	避難世帯数	避難者数	備考
参考 (最大)	23 施設	—	794 人	7 月 7 日 (土) 8 時 40 分現在

庁内の体制等

(1) 庁内の体制

7月 6日 (金)

5時40分	注意体制設置
15時00分	災害警戒本部設置
17時50分	災害対策本部設置

(2) 災害対策本部会議の開催状況

7月 6日 (金)	20時30分	
7月 7日 (土)	0時30分	6時00分
7月 8日 (日)	8時30分	18時30分
7月10日 (火)	13時00分	18時00分
7月11日 (水)	13時00分	21時05分
7月12日 (木)	13時30分	
7月13日 (金)	13時00分	18時30分
7月14日 (土)	9時00分	
7月15日 (日)	9時00分	
7月16日 (月)	9時00分	

7月17日～8月20日の間、毎日1～2回災害対策本部会議を開催

(3) 災害復旧対策本部について

8月20日 (月)

10時00分 災害復旧対策本部へ移行

以降、毎週1～2回災害復旧対策本部会議を開催

本市の被災状況

(1) 主な被災箇所



(2) 主な被災箇所の状況



の場公園付近・上空から（港町）



木村城跡付近・上空から（新庄町）



賀茂神社付近・上空から（東野町）



国道 432 号・葛子集会所付近（新庄町）



国道 432 号・葛子橋崩落（新庄町）



国道 185 号・の場公園付近（港町）



西上条 3 号線 1 号橋崩落（下野町）



町並み保存地区・照蓮寺参道（本町）



県道 75 号・小吹トンネル出入口付近（小梨町）



災害廃棄物仮置き場（竹原浄化センター）

5

現地調査など

(1) 被災現場の調査（平成 30 年（2018）7 月 11 日）



(2) 広島県知事と現地調査（平成 30 年（2018）7 月 16 日）



(3) 国等への要望活動（平成 30 年（2018）7 月 17 日）



復旧・復興に向けた主な取組

(1) 復旧に向けた主な取組

① 道路

《道路の仮復旧：市道大井宿根線》



西の川増水による落橋
(平成 30 年 (2018)7 月 8 日撮影)



大型土のうの設置による仮復旧
(平成 30 年 (2018)10 月 19 日撮影)

② 河川

《河川の仮復旧：賀茂川（東野地区）》



増水による堤防の斜面崩壊
(平成 30 年 (2018)7 月 8 日撮影)



大型土のうの設置等による仮復旧
(平成 30 年 (2018)7 月 29 日撮影)

《河川の仮復旧：西の川（JR 下流）》



増水による堤防決壊
(平成 30 年 (2018)7 月 10 日撮影)



大型土のうの設置による仮復旧
(平成 30 年 (2018)9 月 26 日撮影)

③ その他

《教育施設等の復旧：東野公民館》



床上浸水被害
(平成 30 年 (2018)7 月 9 日撮影)



応急復旧後
(平成 30 年 (2018)9 月 25 日撮影)

《上水道の復旧》



他の自治体による給水活動への支援
(平成 30 年 (2018)7 月 14 日撮影)



断水の解消
(平成 30 年 (2018) 8 月 4 日撮影)

《陸上自衛隊による入浴支援》



東野公民館における入浴支援
(平成 30 年 (2018)7 月 16 日撮影)

《医療支援》



災害派遣医療チーム (DMAT) の活動
(平成 30 年 (2018)7 月 9 日撮影)

《宅地内土砂等の撤去》



被災家屋（半壊以上）の撤去
(平成 30 年 (2018)8 月 21 日撮影)



宅地等に流れ込んだがれき及び土砂等の撤去
(平成 30 年 (2018)7 月 22 日撮影)

《災害ボランティア活動》



東野地区での活動状況
(平成 30 年 (2018)7 月 28 日撮影)

《呉線全線復旧》



「瀬戸内マリンビュー」おもてなしイベント
(平成 30 年 (2018)12 月 15 日撮影)

(2) 復旧・復興への取組（その他）

- | | |
|----------------|---|
| 7月9日 | ○自治会単位を基本に、床上・床下浸水被害を受けた世帯に対し消毒液を配布 |
| 7月12日～各避難所閉鎖まで | ○各避難所の避難者の利用をはかるため、談話室機能等がある6避難所において図書・雑誌コーナーを設置 |
| 7月13日～15日 | ○豪雨災害に関する広島弁護士会による無料の法律相談窓口を設置 |
| 7月31日 | ○市役所内に宅地内土砂等撤去担当を設置 |
| 8月7日 | ○市議会全員協議会で被害等や市の取組を報告 |
| 8月20日 | ○竹原市災害対策本部を廃止し、災害復旧対策本部を設置
○市役所内に災害復旧対策班を設置 |
| 8月～10月 | ○地域防災計画の見直しに向けた庁内ヒアリングの実施 |
| 9月24日～1月31日 | ○公共土木施設災害査定の実施 |
| 10月3日～12月27日 | ○農地農業施設等の災害査定の実施
○災害関連緊急傾斜事業の実施（4か所、新庄町片山谷、仁賀町下仁賀地区、吉名町小平方地区、吉名町観音谷地区）
○災害関連緊急砂防事業の実施（4か所、西野町賀茂川支川7・8、港町五丁目飯屋谷川、東野町中条川） |
| 10月22日 | ○竹原市地域支え合いセンターを開設 |
| 11月9日 | ○義援金第2次配分支払開始 |
| 11月29日 | ○平成30年7月豪雨災害 竹原市復旧・復興プランの策定 |
| 12月19日 | ○19自治会（要望書提出）に対し、復旧・復興プランを説明するなど意見交換を実施 |
| ～平成31年1月21日 | |
| 1月28日 | ○災害認定弔慰金等認定審査会開催 |
| 1月29日 | ○災害認定弔慰金等認定審査会の結果を受け、災害関連死2件を認定 |

本計画の策定に当たりまして、多大な御尽力をいただきました竹原市総合計画審議会委員の皆様をはじめ、アンケートやパブリックコメントなど貴重な御意見をいただきました市民の皆様から感謝申し上げます。



竹原市ホームページ

<http://www.city.takehara.lg.jp/>



竹原市公式 Twitter

https://twitter.com/takehara_city



竹原市公式 Facebook

<https://www.facebook.com/takeharacity>



竹原市公式 インスタグラム

https://www.instagram.com/takehara_city/



第6次竹原市総合計画

平成31年(2019)3月

発行：広島県竹原市

編集：竹原市企画振興部 企画政策課

〒725-8666 広島県竹原市中央五丁目1番35号

TEL 0846-22-0942 (企画振興部企画政策課)

FAX 0846-22-0998

URL <http://www.city.takehara.lg.jp>

E-mail kikaku@city.takehara.lg.jp

TAKEHARA

The 6th TAKEHARA Comprehensive Plan

第6次竹原市総合計画
2019-2028

